令和５年度　栃木市教育研究所　研究所員研修会　研究記録カード

１　部会名	児童生徒指導　　部　　会		
２　研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆増山　智大（岩舟中） ・黒子　孝佳（栃木第三小）	・南端　文栄（東陽中） ・古川　則子（南小）	事務所員 ・篠崎　智延 ・黒須　周作 ・海老沼　宏明

３　研究テーマ

“関わり”を広げ、深めるための実践と教師の役割

４　研究の取組

（１）研究内容

・保護者、外部専門機関等（SC・SSWを含む）との関わりについての事例を集める。
・各事例の検討（担任の関わり方、外部専門機関等との連携など）と、内容の整理。
・各事例から実践へどのようにつなげていけるか。

（２）研究計画

月　日	研修内容	月　日	研修内容
5月11日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	2月8日	協議・まとめ
6月27日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		次年度の構想
9月19日	事例検討	2月16日	２年次経過報告提出
11月6日	・外部専門機関等との連携		

５　研究の成果と課題

【成果】
・各校の事例から、SSW等を含む外部専門機関等との連携を図ることで、問題を抱える児童生徒や家庭の状況を改善できることがわかった。
・事態が好転した事例や活用がうまくいった事例から、学校でできること、SSW等を含む外部専門機関にお願いしたいことや、活用の方向性を明確にすることが重要であることがわかった。

【課題】
・外部機関等と保護者や児童生徒のつなぎ方をどのようにしていくか。
・SSW等の外部専門機関等の有効活用のために、ケース会議等を通して活用の方向性を決めておくことや、学校としてできること、外部専門機関等にお願いしたいことを明確化しておくことが課題である。
・教職員の理解が深まらないと、活用に踏み切れないことがある。SSWやSCを含む外部専門機関等の活用方法について、研修等を通して教職員に周知する必要がある。

６　さらに研究していきたいこと・次年度の構想

〇今年度SSWをうまく活用できなかった事例を経過観察し、より効果的に活用できる方法を考えていきたい。